

“輝け！ひぐみっ子” だより

～東汲沢小学校教育目標「学びあい 高めあい まちとともにあゆむ ひぐみっ子」～

☎861-5531

<https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/higashigumisawa/>

今日も、ひぐみっ子は育っている！～令和5年度を振り返って～

校長 丹羽正昇

令和5年度も、いよいよ最終月です。この一年間、保護者や地域の皆様に支えられ、ひぐみの教育は前進し、ひぐみっ子は大きく成長してきました。改めて感謝申し上げます。ありがとうございました。今月は、一年間の総まとめとして、各学年のひぐみっ子の育ちを話題にしたいと思います。

一年生。ひょっとしたら、いちばん成長した学年かもしれません。小学校での学びの基本を身に付けながら、ある学習では30分にもわたり自分のお気に入りの本を夢中になって紹介合っていました。そこに教師はいたのですが、全く目立たず、子どもだけで学びを進め、周りを驚かせていました。

二年生。彼らは実におもしろい。学びに関しては主体性の塊のような存在で、授業中に真剣に議論しあう（ときには言いあっている）姿は、低学年とは思えないほどの迫力があります。人を思いやる気持ちにあふれた彼らの学びは、これからのひぐみの学びのスタンダードになると思います。

三年生。小学生の中ではベテランの域に達している学年です。低学年までではできなかったことが、実はたくさんできるようになっています。近くのスーパーマーケットへの取材。お店の人がたじたじになるほどの質問内容。見方や考え方が進化している証拠です。行動力もすばらしい。先日、子どもだけで小さなサッカーゴールを移動させている姿を見ました。運べるのかなという予想を見事に裏切って、力を合わせて慎重に運ぶ姿。なんだかじんとききました。

四年生。クラブ活動や宿泊行事を経験し、行動範囲や人とのかかわり方が変化する学年です。学校全体や地域の人役に立ちたいという熱い思いが、具体的なアイデアにつながり、たくさんのひぐみっ子や大人を動かしました。別の機会には、一冊の本を真ん中において友達と語り合う姿がありました。基本的に本は一人で読むものと思われがちですが、実のところ友達や仲間と一緒に本を読むと、一人で読むよりも楽しいことに気がきます。このことは、学校に来ていることの意義を思い起こさせます。

五年生。ひぐみのサブリーダーとしての存在。安定感抜群って言ってあげたいけれど、私がいちばん評価していることは、その自由奔放なところ。教室にいつ訪れても、とにかく明るい雰囲気。もちろん悩み多き高学年ですから、人間関係に課題はあるのでしょう。しかし、常に明るく前向きに見えます。球技交流会の際のエピソード。他校との試合の中で、勝っても負けても仲間意識を前面に出して相手を思いやる様子がありました。あくまでも交流することを大切にされたその姿は、心の余裕や度量の大きさを感じさせ、大したものだなあと感心してしまいました。

六年生。押しも押されぬひぐみのリーダーです。この一年間、彼らの存在に何度もひぐみは救われてきたように思います。地域のレストランとコラボした商品開発、ひぐみ版戸塚区カルタづくり、いずれの学習も、次年度以降のひぐみの学びの在り方を決定づけるものだと確信しています。自分の目標が他の人を幸せにすることを実感できた学びは、少し前から言われている「ウェルビーイング」の意味を分かりやすく説明していると思います。あまり書くと卒業証書授与式の式辞に影響するので、この辺りでやめます。とにかく六年生には感謝しかありません。ありがとう！

最後に、ひぐみっ子の育ちを象徴させるような話を一つ。個別支援学級において、ポップコーンの販売を通じて、お世話になった地域の人たちへ感謝を伝える学習があります。私はその前段階の練習で、客の一人として参加しました。接客の場面。私は「おすすめの商品は何ですか」とある子に尋ねたのです。するとその子は、「自分の好きなのはコンソメ味（のポップコーン）なんだけどなあ」と私に聞こえるか聞こえないかぐらいの声でつぶやき、続いて「でも、うーん」と数秒悩んでいたのです。その姿勢に、私はいたく感動させられました。このエピソードが教えるのは、相手をおもんばかりの優しい気持ちで、人を感動させるという事実です。そしてさらには、そもそも考えたり悩んだりするのは、「（自分も含めた）多くの人を幸せにする行為」なのだという、思考する意義と大切さです。

今日も、ひぐみっ子はしっかり育っている。嬉しい一年間の振り返りです。

